

大腿骨頸部骨折 人工骨頭置換術 入院計画表①

様 主治医

受け持ち看護師

経過	入院日	入院2日目～手術前々日	手術前日	手術当日術前	手術当日術後	手術後1日目	手術後2日目	手術後3日目	手術後4日目
月/日	/	/ ~ /	/	/	/	/	/	/	/
目標	不安が最小限で過ごせる。 骨折部の痛みが緩和される。 日常生活が介助で送ることができる。		手術の準備ができる。	手術の準備ができる。	手術した足の制限が守れ、脱臼が起こらない。	日常生活が介助で送ることができる。			
処置	ベッド上安静のため、尿の管を入れさせていただきます。 骨折部位をアイスパックで冷やします。 手術後歩行できるようになるまで血栓予防のための機械を足につけます。		排便がなければ座薬や洗腸をかける場合があります。	新しい病衣に着替え、指輪・時計・入れ歯などの金属類は全て外します。	傷の中で血が貯まらないよう、血を抜くための管が入ってきます。 手術した部位を5日間アイスパックで冷やします。	傷からの出血がある場合、回診時ガーゼを交換します。	回診時、傷に入っている管を抜きます。	回診時、傷の消毒をします。	毎日、または一日おきに回診時に傷の消毒をします。
安静度	ベッド上安静です。ベッドアップは痛みに合わせてできます。排泄もベッド上でさせていただきます。寝返りは看護師がお手伝いします。			()時にベッドのまま手術室に行きます。	2週間、股関節が外れるのを予防するための三角の枕を足の間に挟めます。				リハビリの状況にあわせて、病棟でも歩行器や杖での歩行を開始します。
治療薬	常用薬は手術後落ち着くまで詰め所でお預かりします。 痛みがあるときは痛み止めが使えます。			()時に飲み薬を飲みます。 ()時頃に点滴をします。	麻酔覚醒後、常用薬の内服を開始します。 抗生剤の点滴をします。 痛みがあるときは痛み止めが使えます。	抗生剤の点滴を3回します。			血栓予防の飲み薬を開始します。
検査	血圧・体温・脈拍を測ります。 採血・レントゲン・呼吸機能の検査をします。				病室後採血があります。	朝採血があります。	朝採血があります。	朝採血があります。	
食事			()時から絶食です。 ()時から絶飲食です。	()時から絶飲食です。	水分・食事は腸の動きが確認できるまで取れません。				
清潔	朝・夜、洗面のタオルをお渡しします。	尿の管が入っている間、感染予防のため毎日洗浄します。 寝たままシャワー浴ができます。その他の日は足に巻いてあるスポンジの中を拭きます。	寝たままシャワーに入ることができます。			→ 車椅子に移れるようになったら、尿の管は抜きます。 体をタオルで拭きます。	傷に防水テープを貼り、シャワーに入れます。一人で入れるようになるまで週2回シャワーの介助をさせていただきます。		
説明		手術までにバスタオルを用意しておいてください。	麻酔科医の診察・麻酔の説明があります。 主治医より手術についての説明があります。 手術前後の説明をさせていただきます。手術後、足が内側に入る・内股・股関節90度以上の屈曲は関節が外れる危険があるため禁止です。		ご家族に主治医より説明があります。				
その他	退院先や自宅の状況を確認をします。		手術同意書・麻酔同意書を提出していただきます。						

※病状に応じて予定は変更になる場合があります。ご不明な点がございましたら看護師にお尋ね下さい。

大腿骨頸部骨折 人工骨頭置換術 入院計画表②

様 主治医

受け持ち看護師

経過	手術後5・6日目	手術後7日目	手術後8・9日目	手術後10日目	手術後11日目	手術後12～14日目	手術後15～19日目	手術後20日目	退院日
月/日	/ . /	/	/ . /	/	/	/ ~ /	/ ~ /	/	/
目標	傷の痛み・体を動かした時の痛みが緩和される。 手術した足の制限が守れ、脱臼が起こらない。 日常生活が介助で送ることができる。			→	一部介助で身の回りのことができる。	→	日常生活に不自由がない。 退院後の生活についての理解ができる。		→
処置	毎日、または一日おきに、回診時に傷の消毒をします。		→	回診時、抜糸をします。	回診時、傷の状態を確認します。				
安静度						14日目から脱臼予防のための三角の枕は外しますが、足の間に普通の枕を挟めます。また、左右に寝返りができるようになります。			
治療薬	痛みがあるときは痛み止めが使えます。								→
検査		朝採血があります。 レントゲンを撮ります。				14日目にレントゲンを撮ります。		レントゲンを撮ります。	
食事									
清潔									
説明				シャワーの入り方の指導があります。				退院後の生活についての指導があります。	
その他		退院先や自宅の状況を再度確認します。					自宅の状況の確認のため、患者様やご家族と一緒に看護師・理学療法士・ケアマネージャーなどが自宅へ訪問に行く場合があります。		



<退院後の生活について>

- ・股関節が90度以上曲がる動作はできません。低い椅子に座る、座ったままのお辞儀、正座、しゃがむ、和式トイレの使用はしないように注意しましょう。
- ・足が内側に向く動作もできません。足を組む、横座りなどはしないようにしましょう。
- ・次回受診は必ず守り、定期的に受診するようにしましょう。
- ・痛みが強くなったり、その他何かあれば、次回受診を待たずに、すみやかに受診しましょう。

※病状に応じて予定は変更になる場合があります。ご不明な点がございましたら看護師にお尋ね下さい。

大腿骨頸部骨折 骨接合術 入院計画表①

様 主治医

受け持ち看護師

経過	入院日	入院2日目～手術前々日	手術前日	手術当日術前	手術当日術後	手術後1日目	手術後2日目	手術後3日目	手術後4日目
月/日	/	/ ~ /	/	/	/	/	/	/	/
目標	日常生活が介助で送ることができる 安静が守れる 牽引の圧迫による指先のしびれがない。 骨折部の痛みが緩和される。				手術した部位の痛みが緩和される。 安静が守れる。 麻酔による頭痛・嘔気がない。 術後の経過が理解できる。				
処置	ベッド上安静のため、尿の管を入れさせていただきます。 アイスパックで骨折した足を冷やします 血栓予防のために足に機械をつけることがあります テープかぶれが起こらないか確認します。判定は48時間後です。 骨折した足の牽引をします。牽引スポンジの圧迫により指先にしびれが出てくる場合があります。その		排便がなければ浣腸をかける場合があります。		医師の指示により酸素を行うことがあります。 5日間手術部位をアイスパックで冷やします。	回診時、傷の消毒を行います	回診時、傷の消毒をします。	回診時、傷の消毒をします。	毎日、または一日おきに回診時傷の消毒をします。
安静度	ベッド上安静です。ベッドアップは痛みに合わせてできます。排泄もベッド上でさせていただきます。 寝返りは看護師がお手伝いします。				ベッド上安静です。ベッドアップは痛みに合わせて行います	自力で寝返りしてもよくなります。リハビリを開始します。 手術した方の足に体重をかけるようになります。			
治療薬	常用薬は手術後落ち着くまで詰め所でお預かりします。自分で管理できるようになったらお返しします。 血栓予防の薬を服用中の方は一時、中止するかもしれません。 痛いときは痛み止めが使用できます。			()時に内服をします。 ()時頃に点滴をします。	麻酔覚醒後、常用薬の内服を開始します。 抗生剤の点滴をします。	抗生剤の点滴をします。 血栓予防の内服または注射をする場合があります。	抗生剤の点滴をします。		
検査	血圧・体温・脈拍を測ります。 採血・レントゲン・呼吸機能の検査をします。				帰室後採血があります。	朝採血があります。		朝採血があります。	
食事			()時から絶食です。 ()時から絶飲食です。	()時から絶飲食です。	水分・食事は腸の動きが確認できるときまで取れません。看護師よ				
清潔	朝・夜、洗面のタオルをお渡しします。	尿の管が入っている間、感染予防のため毎日洗浄します。 牽引スポンジの中を清拭します。	寝たままシャワーに入ります。			全身清拭をします。			傷に防水テープを貼り、介助でシャワーに入れます。
説明	入院の説明をさせていただきます	手術までにバスタオルを用意しておいてください。	麻酔科医の診察・麻酔の説明があります。 主治医より手術についての説明があります。 手術前後の説明をさせていただきます。		ご家族に主治医より説明があります。				
その他	退院先や自宅の状況を確認をします。		手術同意書・麻酔同意書を提出していただきます。						

※病状に応じて予定は変更になる場合があります。ご不明な点がございましたら看護師にお尋ね下さい。 滝川市立病院 整形外科

滝川市立病院 第7病棟 作成 H22年 4月